

「熊本市歯と口腔の健康づくり推進条例」 が制定されました

令和2年4月1日施行



どうして条例ができたの？

歯と口の健康は、全身の健康を保つために重要な役割を果たしています。市民の皆様が生涯にわたり明るく健康に暮らせる社会の実現をめざし、条例が制定されました。



どんな条例なの？

歯と口の健康づくりを進めるための基本理念や市の責務、市民及び歯科保健医療福祉関係者や事業者等の役割を明らかにしています。熊本市の基本的な施策などが定められています。



みんなで一緒に取り組みましょう！



～それぞれの役割～

事業者

- * 従業員が歯科検診を受診する機会を確保します。
- * 歯科保健指導を受けることができるよう職場環境の整備に努めます。

市民

- * 歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識の習得に努めます。
- * 定期的な歯科検診や歯科保健指導を受け、歯と口腔の健康づくりに取り組みます。
- * 市が実施する保健サービスなどを活用します。
- * むし歯や歯周病の予防と早期治療、健全な食生活の実践に取り組みます。

議会

- * 市民の声が施策に反映されるよう政策提言を行います。

市

- * 歯科保健基本計画に基づき、歯と口腔の健康づくりに関する施策を実施します。
- * 必要な財政上の措置に努めます。

歯科医師
保健医療福祉等業務従事者
教育関係者
歯科保健推進・食育関係者等

- * 市が実施する施策に協力します。



はちまるにいまる

※厚生労働省は平成元年から「8020運動」(80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動)を提唱しています。



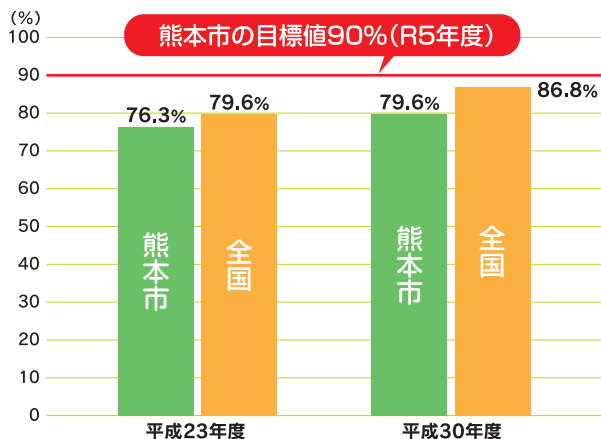
熊本市民の歯と口の現状は？



定期的に歯科検診を受けて、全身の健康づくりにつなげましょう！

むし歯がない子どもの割合(3歳児)

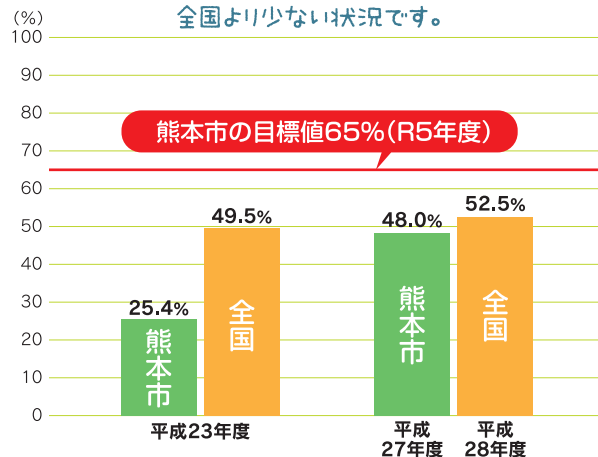
熊本市の3歳児は全国よりむし歯が多い状況です。



出典：【熊本市】3歳児歯科健診結果
【全国】熊本県歯科保健状況調査

定期歯科検診を受ける人の割合 (対象：40～69歳)

定期的に歯科検診を受けている人は全国より少ない状況です。



出典：【熊本市】健康くまもと21市民アンケート
【全国】国民健康・栄養調査



全身の健康は、お口の健康から！

～歯周病と全身の病気～

動脈硬化

歯周病の炎症症状が血管を傷つけ、動脈硬化を招きます。

脳梗塞・認知症

動脈硬化は脳梗塞の原因となり、脳の血管の詰まりは認知症につながります。

糖尿病

歯周病になると分泌される炎症物質がインスリンの働きを妨げ血糖値が上がるといわれています。

肥満

歯周病菌の毒素で肥満が進行するといわれています。

早産・低体重児出産

歯周病の炎症物質により早産・低体重児出産の確率が高まります。

関節リウマチ

歯周病と同様に炎症性サイトカインとの関係性が示唆されており、歯周病を治療するとリウマチの症状が軽くなることもあります。

噛むこと・口腔ケアをすることは、多くの病気のリスクを下げることができます。

心疾患

歯周病による動脈硬化が心臓の血管を詰まらせ、狭心症や心筋梗塞につながるとの報告が多く認められています。

誤嚥性肺炎

歯周病菌の含まれた唾液が気道に入ることによって誤嚥性肺炎のリスクが高まります。

引用：日本歯科医師会HP・8020推進財団「歯と口のケアからはじめる健康長寿」